



日本国内には、類似施設も含めると、約4,000もの博物館があるという。その内部には高尚なものから通俗なものまで、多種多様な「知」が収められている。昨今では生き残りをかけて、展示の手法に工夫を凝らした博物館も少なくない。

土木技術や土木工学は、人間社会の生活と密接にかかわっているため、博物館の展示のなかには土木とさまざまな形で関連しているものがある。道路、河川、鉄道、電力…と社会基盤施設を思い浮かべるだけでも、それらの進化の歴史を考えれば、展示物として十分な価値があることが想像できる。

博物館のなかには、土木事業を広く一般に理解してもらうことが目的で建てられた施設もあれば、人間社会の一部を切り抜いて表現するために、必然的に土木関連の諸事に触れた施設も存在する。目的はどうか、それらの施設は専門外の人でもわかりやすいように工夫されているため、博物館は子どもに土木の仕事を見せたり、自身の見識を広めるにもうってつけの場所なのだ。

本連載では、土木にまつわる展示を求めて全国各地の博物館に赴き、その魅力と、一押し展示を写真とともに紹介する。

意外な博物館が、家の近くにひっそりと建っていることもある。また貴重な展示が地方の小さな博物館で見つかることもある。出張の前後にふらっと立ち寄るもよし、休日に家族と出かけるもよし、本連載を読者の好奇心をくすぐる知的な小旅行のお役に立てていただければ幸いである。

(松田曜子)

Learning Civil Engineering in Museums 博物館で 土木を学ぶ

土木にまつわる展示を全国に訪ねて

編集企画主査 松田 曜子

編集企画担当 S 班

橋本 紳一郎、松良 精三、山中 稔、
亀谷 一洋、吉田 陽一

企画
趣旨